

No.3117

ニュージーランドの先住民マオリの親族に関する知識の研究

名古屋大学大学院人文学研究科博士研究員

神山 歩未

本研究は、ニュージーランドの先住民マオリのファカパパ(whakapapa/genealogy)と呼ばれる親族的知識を収集し分析することにより、マオリが自然と人間をどのように位置づけているのか明らかにすることを目的としている。世界的なパンデミックの影響により、海外調査の目処が立たないため、国内において可能な、西洋近代的な人間と自然を二分する視点を乗り越える視座構築の一助とするための調査研究を行ってきた。

国内で可能になったのは、国内で唯一、亜麻仁油の原料となるニュージーランド麻を扱う業者への聞き取り調査(於 東京都)と、縄文遺跡群(於 青森県)への調査研究である。

ニュージーランド麻については、マオリによるカイティアキタンガ生物保護の観点や遺伝子組み換えに反対しているマオリの活動により、ニュージーランドでは、無農薬有機栽培が進んでおり、そういった観点からも、先住民文化が色濃く農業に反映されていることが特徴であるという。白人接触以前より、マオリが守ってきたニュージーランド麻は、現代においても、人の生活と健康を守るカイティアタンガという文化的概念と関連がある可能性が高いという。先住民が文化的に有している知識は、現代の科学や、西洋近代医療の知識とは捉えられかたが異なる一方で、現代西洋的な科学的な見地からもその有効性が証明されるものが数多く存在する。マオリが用いていた麻も同様である。一方で、ファカパパ親族関係の系譜に関しては、特に有益な情報は得られなかった。

縄文遺跡群においては、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館を訪問した。調査研究より縄文文化においても、マオリ文化においても、動物の模倣あるいは一部を身につけるといった文化的共通点が見られた。双方の文化において、持っている力を身につけ、自分自身の強化を望んだり、素材にやどる力をまつりの道具に反映したりする意識が働いていた可能性を示唆した。